

2021年度第4回7月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2021年7月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数9名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	白幡冬彦
	委員	古口 悟
	委員	富田哲夫
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	大出正志

4. 議 題

- (1) 地球はひとつJ (ジェイ) (ビタミンとちぎ内)
毎週水曜 10:40~10:55

- (2) その他

5. 議事内容

(1) 地球はひとつJ

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：国際協力機構 JICA の隊員として、開発途上国に派遣された方々をゲストに、赴任先で行った仕事や現地の様子を聞く。途上国の現状や人・文化など隊員が感じた日本との違いや途上国から見た日本の印象、改めて日本に対して思ったことなどを話してもらう。海外渡航が困難な現状で、世界のあらゆる国の文化・風習を紹介し、興味を持ってもらう番組。

各委員からは、

- 過去の海外渡航の経験や異文化との出会い、衝撃、母国の印象などの思い出を改めて思い起こした。パーソナリティが巧みで、さりげなく想いや思い出を語る出演者に感心した。大いに役立つ有意義な番組だった。
- 人柄や意義ある活動ができたことへの達成感などが伝わってくる。放送時間もちょうど良い。コロナ収束後の活動再開に向けて隊員OBの声が聴けるのは良いPRになり、興味を持つ人が増えるきっかけになるのではないかと。もう少し任務の大変さ、到達度合い、隊員が関わる必要性なども聞きたかった。出演者の特徴を踏まえたうえで、リードしてインタビューするとさらに良かった。
- 出演者それぞれの話を興味深く聞くことができた。しかしそれぞれの国の文化や風習を紹介して興味を持ってもらうことがコンセプトとするなら、国際協力で派遣された隊員の話と聞き出したい内容にずれがあるように感じた。現地でやって来たことについて深く聞く番組になれば、さらに感動を与えられるのではないかと。
- 隊員が言葉も文化も違うところで、いかに各地の生活を支えていくために奮闘したかがよく理解できた。写真や物の紹介もあったが、ラジオでは難しいので、ホームページを活用するなどするとよりわかりやすいのではないかと。
- 志が高く自分を試してみたい人、自分のスキルを世界で役立てたいという想いの人にはとても良い。番組では仕事の内容によるやりがいや喜び、生活習慣の違いによる悩み、苦労などをもう少し紹介して、技術や知識を世界に広げたいと考えている予備軍への後押しとなる内容でもよかったと思う。JICAの求人職種なども紹介できればよかった。

- 活動した方々の話を興味深く聞くことができた。15分番組と思えないほど情報量が詰まっていて、現地にいた人ならではの臨場感ある情報だった。単なる旅行記ではなく、長期間滞在していたからこそ実感した日本の良さを伝えてくれた番組だった。
- 世界に目を向け、コロナが収束したら前と同じように世界に戻れるという明るい気持ちにさせてくれるような番組だった。世界で活躍する本県出身者の声を届けることは国際化に意義がある。隊員のそれまでの仕事はどうか、戻ってから復職できたのか、収入はどうかなどの話も聞けると良かった。国際化するうえで避けて通れない問題が山積している我が国の現状を思うと、単に文化や風習に興味を持つだけで良いのか複雑な気持ちとなった。
- 開発途上国の現状や現地でのエピソードなど、世界を身近に感じ、興味・関心を持てる番組だった。近年応募者が減少している JICA の PR になるとともに身近にいる在県外国人の理解促進にもつながると思う。
- コロナ渦で渡航できない現在、派遣者の話を聞くことで、現地への想いを馳せることができ、リスナーも現地に行った気分になるのではないかと。派遣者の話はためになるが、日本文化を深く理解せず、他国と自国の文化を比較することはリスナーが受け身であればあるほど影響力が大きい。パーソナリティの腕の見せ所となるように感じた。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2021年8月29日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2021年9月10日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2021年9月10日～)

以上